オリンピック開催に関する批判的考察
～大会にかかる経費に着目して～
A critical study of the Olympic Games
~Paying attention to the cost of the Olympic Games~

1K06B205　　眞鍋　肇
指導教員　主査　友添秀則先生　　副査　作野誠一先生

【本研究の動機と目的】

2009 年 10 月 3 日、2016 年の夏季オリンピックがリオデジャネイロに決定した。招致の段階では東京も参加し、一時審査ではトップをとり、52 年ぶりのオリンピック開催まですぐそこまで迫っていた感がある。しかし、オリンピックを開催するにあたって、開催することが、国民、開催都市の市民の総意であるかのようにまとめられ、なおかつ経済波及効果などオリンピックのいいところしか伝えられていなかったように思われる。しかし、早稲田大学スポーツ科学部において、政治的に利用されるナショナリズムの問題やドーピングという人間の原理に関わる問題,環境問題と切っても切り離せない問題をはじめとして、オリンピックにまつわる様々な諸問題について学んできた。その中でも私はこれまで大成功だと思ってきた長野オリンピックが大会後に長野の市民は税金に苦しんだということを知り、オリンピックにかかる莫大な経費という点に興味を持ったと同時にオリンピックを開催することは、意味のあることなのか、と疑問に感じ始めた。そこで、莫大な経費のかかるオリンピックによって生じる影響を明らかにし、それを元に、批判的立場にたって考察していく。そして、莫大な費用をかけてまでオリンピックを開催するメリットに関して考察していき、オリンピックの開催意義を明らかにしていく。そして、それらを踏まえて、今後オリンピックが健全で存続可能なものとなっていくことを願い、それに向けた提言を行っていくことが本研究の目的である。

【本研究の方法】

本研究は文献購読によって行い、情報が不足しているところに関してはインターネットを使って研究を進める。

【各章の概要】

第 1 章では莫大な経費のかかるオリンピックを批判的に考察する前に、ここまで経費が増大していった歴史的背景を考察すると共に、現在のオリンピックにかかる経費の現状について明らかにしていく。第 2 章ではまず、莫大な経費がオリンピックに与える影響に関して開催都市、開催都市以外の 2 つに分けて明らかにしていく。開催都市に与える影響に関しては長野オリンピックを例にとる。そして、それらを元に、批判的考察を行っていき莫大な経費がかかることの、何がいけないのか、を明らかにする。第 3 章では、第 2 章で莫大な経費のかかるオリンピックを批判的立場にたって捉えはしたが、莫大な経費をかけてまでオリンピックを開催しようとするのには、オリンピックに何かしらのメリットがあるためであり、そのオリンピックのメリットを主に、東京オリンピック、ソウルオリンピックを例にとって、明らかにしていく。そして、それを元にオリンピック開催の意義に関して考察を進めていき、今後のオリンピックの方向性

の手がかりとする。そして、結章では、第１章から第３章までの内容をまとめると共に、今後のオリンピックが健全に何十年、年百年と続いていき、発展していくための提言を行う。